

令和2年度 一般入学試験 (A方式) 問題

国語

(60分100点満点)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 開始前に解答用紙に受験番号、出身中学校名、氏名を記入しなさい。また、受験番号は算用数字を用いなさい。
3. ページのないものや、文字の薄い場合は監督者に申し出なさい。
4. 解答は、解答用紙の解答欄に記入しなさい。
5. 使用できる用具
 - ①黒鉛筆 (万年筆、ボールペンは使用しないこと)
 - ②鉛筆けずり
 - ③消しゴム

沖縄尚学高等学校

第一問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお、出題の都合により字句を改めたところがある。

自然という言葉の反対語は何か、と問われたとき、まず最初に挙げられるのは人間あるいは人為という語であろう。しかし、人間の場合でも、呼吸運動や排泄運動などは自然に行われる運動だとされている。人為的、すなわち人間が自分の自由意志に基づいて行う行為は自然的な行為ではない、と言われる。だが同時に、地球上に^アセイソクしている自由意志を持っていない動物と比較して、自由意志を持つている人間という動物がそれを用いて自由に行動ができるのは^①自然なことだ、とも言われるだろう。

このようなことからふと思いついて、私が戦時中、^{※1}ニューギニアのジャングルの中で生活していたときのことを考えてみた。たしかにそこは、今まで人間が住んだこともない密林の地だから、人間の手で変えられたことのない自然そのものが残っている。電気や鉄道もなければ、田畑もない。したがって、私たち人間が生きていくためには、最初のうちは食べられる木の葉や果実、たとえばパイヤの実などを見つけてきて食べていたが、そんな物では十分ではなくて、結局さつまいもを^イサイバイする以外なかった。そして畑をつくってさつまいもの^ウナエを植えれば三か月たてば食べられることなどもわかった。

サイバイのためには、それまで自然のままに生えていたジャングルの木を伐り倒し、根を掘り起こして土だけにし、畑をつくることに専心しなければならなかった。そして、^エザツソウを取り除き、畑をつくってさつまいもを植え、三か月後にさつまいもを収穫して食べる、という作業を絶えず繰り返すことによってはじめて生きていくことができたのである。つまり絶えず自然と闘っていなければならなかったのである。

東京のような大都市では、人間が自然と闘い、自然を破壊した後の、いわば人為的なものばかりが多く残っていて、自然そのものはや存在していない、と言うべきかもしれない。考えてみると、人間は自然そのものの中では生きていけないので、絶えず自然と闘い、自然を人為的なものに変えていくという努力を繰り返さなければならぬ。東京のような大都市に住んでいる人びとが自然を懐かしく思うのは、自分たちが破壊してきた自然への^②詫び心であるのかもしれない。

生物は多かれ少なかれ自然を破壊しなければ生きていけない。特に人間という動物は、自分の持っているすぐれた知能の故に、その知能が発達すればするほど、自分たちの仲間を増やし、かつその生活を豊かにするために自然を破壊してきた。その意味では、私の経

験したニューギニアでの生活は、自然を破壊すると言ってもその規模はまだ小さく、近代化と言われる生活の豊かさが実現されるにしたがって、自然破壊の量は加速度的に増してきた。

結論として言えば、人間という動物が地球上に生存する限り、^③自然の破壊はなくなることはない。特にその人口が増加する限り、自然の破壊は人口増加率と^オヘイコウ的に増加していくことになる。それでは、自然破壊が進んで、地球上に自然がなくなったら、人間はどうするのだろうか。自然がなくなった社会とは、一体どのような社会だろうか。それは、人間しかない社会である。私がいずこへ行っても、私に見えるものは人間だけだ、という社会である。

このような、^④私に見えるものは人間だけという社会では、私は常に、私より上位の人か、下位の人か、あるいは自分と同等の人か、といったことを気にしなければならないだろう。私が自分の家庭の中で生活している限り、このようなことを気にする必要はない。しかし、ひとたび家を出ると、町や電車の中で、自分より上位か下位か同等の人かを気にしている私が、森や林や山だけの見える自然の中に入ると、そのように気を配る必要はまったくなくなり、自然だけを見ていられる。自然の中では人間社会のような気遣いをする必要でなくなる。同じ生物として、あるいは自分を養ってくれる自然の一部として、自分のまわりを囲む生きているものと同一員である自分が見えてくるのである。

人間は、自然の前で、自然を見ていることで、人間社会のなかでの息苦しい生活を忘れ、自然のなかで生きている自分自身の仲間と出会うことで、地球上での本来の友と会う懐かしさを感じるのではないだろうか。人間自身が、やはり自然の一部であることを知り、自然の他の一部である友人と出会うような気持ちになり、^⑤自分自身の忘れていた本来のあり方に気づくようになるのではないだろうか。

(沢田允茂『自然と人間』より)

※1 ニューギニア…太平洋南部に位置する島。

問一 傍線部①「自然なことだ、とも言われるだろう」とあるが、どういうことか。最も適当なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 自然の一員たる人間が自由意志によって行った行動が最も理想的な自然の行為だということ。
- イ 動物の中で人間だけが自然の一員として自由意志によって行動することができるということ。
- ウ 自然の一員たる人間が本性的な自由意志により行動することは自然的なことだということ。
- エ 人間の呼吸運動や排泄運動などの運動は他の動物と同様に自然的であるということ。
- オ 人間が自由意志により行動するかどうかとも結局は人間の自由意志によるものだということ。

問二 傍線部②「詫び心」とあるが人々が「詫び心」を持つのはなぜだと考えられるか。最も適当なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 自分たちが破壊してきた自然がなくなったことをさびしく思うから。
- イ 自分たちが生活のために人為的に変化させた自然を情けなく思うから。
- ウ 自分たちが破壊して台無しにした自然を回復しようと反省しているから。
- エ 自分たちの生存のために破壊しつくした自然に許しを求めているから。
- オ 自分たちの自然破壊について素直に反省し行為を正当化したいから。

問三 傍線部③「自然の破壊はなくなることはない」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 人間は破壊の規模を拡大していくから。
- イ 人間は仲間と社会を作ろうとするから。
- ウ 人間はすぐれた知能をもっているから。
- エ 人間は自然と闘わなければならないから。
- オ 人間は生きていかなければならないから。

問四 傍線部④「私に見えるものは人間だけという社会では、私は常に、私より上位の人か、下位の人か、あるいは自分と同等の人か、といったことを気にしなければならない」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 自然のない人間だけの環境では人為的なものに最大限の興味関心をもつことになってしまうから。
- イ 本来の自分というものを見失い他人と比べないと自分が何であるかわからなくなってしまふから。
- ウ 人間は本来、周りを生きている生物とおなじく自然の一員であることを忘れてしまっているから。
- エ 自然を失った社会では人間はよりよい生存のために他人からの評価を絶えず気にする必要があるから。
- オ いくら都会の生活に飽きて自然の中で生きたいと思っても人間関係を放棄することはできないから。

問五 傍線部⑤「自分自身の忘れていた本来のあり方」とはどのようなことか。最も適当なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 社会から解放された人間のありかた。
- イ 社会の敵対者としての人間のありかた。
- ウ 自然の理解者としての人間のありかた。
- エ 自然の要素としての人間のありかた。
- オ 自然の仲間としての人間のありかた。

問六 本文の内容として不適当なものを次の内から一つ選り記号で答えなさい。

- ア 人は自然の中で一時的にわずらわしい人間関係から解き放たれる。
- イ 自然破壊の量の加速度的増加により近代化がおし進められてきた。
- ウ 自然に適した農作でさえも人為による自然破壊であると言える。
- エ 人口の増加率と自然破壊の量との間には相関的な関係が成立する。
- オ 自分の本来の姿は他人との比較において見いだせるものではない。

問七 傍線部ア～オのカタカナを漢字で書きなさい。

第二問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお、出題の都合により字句を改めたところがある。

鳥(バード)は、脳に傷を負って生まれてきたわが子の命を他人の手に押しつけ、大学時代の同窓生の女性火見子と一緒に逃げようとしていた。だが旧友菊比古と再会し、恥知らずな自分を自覚した鳥は、わが子を取り戻そうとする。

「ぼくは逃げまわって責任を^アカイヒし続ける男でなくなりたいだけだ。」と鳥は屈せず言った。

「ああ、わたしたちの^{※1}アフリカ旅行の約束はどうなるの?」と火見子は激しく^{※2}嚙り泣いた。

「お火見さん、見苦しいよ。もう、おやめ! 鳥が自分自身にこだわりはじめたら、他人の泣き声なんか聴きはしないよ。」と菊比古が言った。

鳥は羊の眼のように潤んでいた菊比古の眼に猛だけしい憎悪のごときものがきらめくのを見た。しかし菊比古のこの呼びかけが火見子に回復のきっかけをあたえたのだ。彼女は、数日前ウイスキー一瓶とともに最悪の状態を訪ねていった鳥をむかえいれてくれた、すでに若さを喪いつつある年齢の限りなく寛大でやさしくおだやかなタイプの火見子に戻った。

「いいわ、鳥、あなたなしでもわたしは家と土地を売ってアフリカへ行くから。仲間にはわたし^{※2}の車のタイヤを盗んだ少年と一緒に連れて行くことにするわ。考えてみれば、わたしはあの子にずいぶんひどいことをしてきたもの。」と火見子は涙の気配を残しながらもヒステリー質の^イキキは確実に乗り越えて言った。

「お火見さんはもう、大丈夫だから。」と菊比古が鳥をうながした。

「ありがとう。」と鳥は火見子にも菊比古にもなく素直に感情を込めて言った。

「鳥、あなたはいろんなことを忍耐しなければならなくなるわ。」と火見子が鳥を励ますように言った。「さようなら、鳥!」

うなずいて鳥は酒場^{※3}を出た。彼が拾ったタクシーは雨に濡れた舗道をすさまじい速度で疾走した。もし、おれが今赤ん坊を救い出す前に事故死すれば、おれのこれまでの二十七年の生活はすべて無意味になってしまう、と鳥は考えた。^①かつて味わったことのない深

甚な恐怖感が鳥をとらえた。

秋の終わりだった。鳥が、脳外科の主任に退院の「アイサツ」をして戻ってくると、赤ん坊を抱いた妻を囲んで、特児室の前に鳥の義父と義母が「ビシヨウしながら待ち受けていた。

「おめでとう、鳥、君に似ているね。」と義父が声をかけた。

「そうですね。」と鳥は控えめに言った、赤ん坊は手術して一週間たつと人間に近づき、次の一週間で、鳥に似てきた。「頭のレントゲン写真を借りてきましたから、帰ってからお見せしますが、頭蓋骨の欠損は、ほんの数ミリ程度の直径のもので、今現にふさがりつつあるそうです。脳の実質が外に出てしまっていたのではなくて、したがって脳ヘルニアではなくて、単なる肉瘤にくりゅうだったんですね。切りとった瘤こぶの中にはピンポン球みたいに白く硬いものが二箇入っていたそうです。」

「手術が成功して本当によかった。」と 饒舌な鳥の言葉の切れめを狙って義父は言った。

「手術が永くかかって輸血を繰り返したとき、鳥は幾度も自分の血を提供したので、とうとうドラキュラに咬まれたお姫様みたいに青ざめましたよ。」と上機嫌でめずらしくユーモラスに義母が言った。「鳥は、獅子奮迅の活躍でした。」

赤ん坊は環境の急変におびえてじつと疎んだように口をつぐみ、まだほとんど視力のないはずの眼で大人たちの様子をうかがっていた。鳥と教授は、繰り返し赤ん坊を覗き込むので、つい彼らより遅れてしまう女たちの数歩先を話し合いながら歩いた。

「君は今度の不幸をよく正面から受けとめて戦ったね。」と教授は言った。

「いや、ぼくはたびたび逃げ出そうとしました、ほとんど逃げ出してしまえばよかったんです。」と鳥は言った、それから 思わず怨めしさを押し殺したような声になりながら、「しかし、この現実生活を生きているということは、結局、正統的に生きるべく強制されることなのです。欺瞞きまんの罫まに落ち込むつもりでいても、いつのまにか、それを拒むほかなくなってしまう、そういう風ですね。」

「そのようにはなく現実生活を生きていることもできるよ、鳥。欺瞞きまんから、欺瞞きまんへとカエル跳びして死ぬまでやっていく人間もいる。」と教授は言った。

「赤ん坊は正常に育つ可能性もありますが、I・Qのきわめて低い子どもに育つ可能性も同じくあります。ぼくは赤ん坊の将来の生活のためにも働いておかなければなりません。もちろん、先生に新しい仕事の世話をさせていただこうとは考えておりません。あのよう※5

な失敗のあとでは、それはやはり先生の側からも、ぼくの側からも、許容される限界を越えたことだと思っています。ぼくは、予備校や大学の講師という、一応上向きの段階のあるキャリアとはすっかり縁を切るつもりなんです。そして、外国人の観光客相手のガイドをやるうと思えます。ぼくはアフリカに旅行して現地人のガイドを傭う夢をもっていました、逆に日本へやってくる外国人のための、現地人のガイド役をやるうと思うわけです。」

教授は鳥に答えようとしたが、そのとき、渡り廊下をいっぱい占領して若者たちの一群がやってきたので、彼らは脇によけて若者たちをやりすごさねばならなかった。若者たちは大仰に腕を吊ったひとりの仲間を囲み鳥たちを全然無視して通りすぎて行った。彼らはみな、着くたびれて薄汚れ、この季節にはもうろ寒げな竜の刺繍のジャンパーを着こんでいた。そこで鳥はその若者たちが、赤ん坊の生まれつつあった夏のはじめの真夜中、彼と闘ったグループであることに気づいた。

「ぼくは今の連中を知っているんですが、なぜだか、彼らはぼくにまったく注意を払わなかったようですね。」と鳥は言った。

「君はここ数週間ですっかり変わってしまった感じだから、そのせいだろう。」

「そうですね？」

「君は変わってしまった。」と 教授が幾らかは愛惜の念もこもっている、あたたかい肉親の声で言った。「君にはもう、鳥という子どもっぽいあだ名は似合わない。」

鳥は、赤ん坊を囲んでなおも熱中して話し合いながら彼らに追いついてくる女たちを待ち受け、妻の腕に守られた息子の顔を覗き込んだ。鳥は赤ん坊の「ヒトミ」に、自分の顔を映してみようと思ったのだった。赤ん坊の眼の鏡は、澄みわたった深いにび色をして鳥を映し出したが、それはあまりにも微細で、鳥は自分の新しい顔を確かめることができなかった。家に帰り着いたならまず鏡を見よう、と鳥は考えた。それから鳥は、本国送還になったデルチェフさんが、扉に《希望》という言葉を書いて贈ってくれたバルカン半島の小さな国の辞書で、最初に《忍耐》という言葉をひいてみるつもりだった。

- ※1 アフリカ旅行の約束：鳥はアフリカに憧憬を抱いていて、火見子とともにアフリカに逃げようとしていた。
- ※2 わたしの車のタイヤを盗んだ少年：時に火見子を困らせる、彼女の友人。
- ※3 酒場：菊比古が経営しているバー。
- ※4 教授：義父のこと。鳥の義父は、彼の通っていた大学の教官だった。今は別の大学で講座を開いている。
- ※5 あのような失敗：鳥は義父の紹介で予備校の講師をしていたが、子どもの件で酒に溺れ、解雇された。
- ※6 デルチェフさん：鳥の知人の外交官。ある事件を起こし、本国に戻された。鳥が子どものことを相談したとき、彼は鳥に辞書を贈った。

問一 傍線部①「かつて味わったことのない深甚な恐怖感が鳥をとらえた」とあるが、この時の「鳥」の説明として最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 突然の事故によって火見子に自分の真意を理解してもらえないまま死ぬことをひどく恐れている。
- イ 交通事故にあつて自分が死ねば赤ん坊を救い出せないのではないかとひどく心配している。
- ウ 不慮の事故によって自分の人生に価値を見いだせないまま死んでしまうことをひどく恐れている。
- エ 赤ん坊を救い出すことができないくらいならばいっそ交通事故で死んでしまおうと覚悟している。
- オ 赤ん坊を救い出せるのは自分だけなのにここで死んではならないと強く自分を励まそうとしている。

問二 傍線部②「饒舌な鳥の言葉の切れめを狙って義父は言った」とあるが、この時の「義父」の説明として最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 手術後の経過を専門的な観点から得意げに話す鳥の態度に機嫌をよくし手術が成功したことを心の底から喜んでいる。
- イ 手術後の経過を熱心に話す鳥の様子から鳥がすっかり以前の自堕落な鳥と変わってしまったことに改めて気が付き感動している。
- ウ 手術後の経過についてだらだらと説明する鳥の態度にあきれて自分の言いたいことが言えない不満をあらわにしている。
- エ 手術後の経過をよどみなく説明する鳥の説明が一通り終わったところで手術の無事に改めて祝意を述べようとしている。
- オ 手術後の経過について自分の聞きたかったことを鳥が説明してくれたのでありがたいと思ひ改めて手術の無事を喜んでいる。

問三 傍線部③「鳥は、獅子奮迅の活躍でした」とはどういう意味か。最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 鳥が捨て身となって自分の子供の命を救ったこと。
- イ 鳥が自分の子供のために人間離れした活躍をしたこと。
- ウ 鳥が手術が長引いて輸血を繰り返して青ざめたこと。
- エ 鳥が手術の際に勇気を振り絞って輸血をしたこと。
- オ 鳥が子供の命と引き換えに自分が死のうとしたこと。

問四 傍線部④「思わず怨めしさを押し殺したような声になりながら」とあるが、この時の説明として最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 正統的に生きるだけの勇気がないのに虚勢を張る自分の欺瞞が見透かされることをひそかに恐れている。
- イ 正統的に生きることを決心しても逃げ出そうとした自分のこれまでの愚かさを素直に認め反省している。
- ウ 正統的に生きようと思っても逃避することしか考えてないあさましい自分を恥ずかしいと思っている。
- エ 正統的に生きる人生しか選択することのできなかつた情けない自分の気持ちを気付かれまいと思っている。
- オ 正統的に生きる人生を選択し現実から逃避できなかつた腹立たしい自分の感情をあらわにするまいと思っている。

問五 傍線部⑤「教授が幾らかは愛惜の念もこもっている、あたたかい肉親の声で言った」とあるが、この時の「教授」の説明として最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 以前の放蕩を憎むことなく父親としての自覚をもった鳥を親身に見守りたいと思っている。
- イ 以前の放蕩を許した訳ではないが父親として立ち直った鳥を応援していこうと思っている。
- ウ 以前の喧嘩っ早い鳥を懐かしく思いながらもすっかり落ち着いた鳥をみて安心している。
- エ 以前の勝手きままな性格を苦々しく思っていたが改心して自立した鳥を見直している。
- オ 以前の自己中心的な行動を許しこれからは鳥を立派な大人として扱っていこうと思っている。

問六 傍線部⑥「最初に《忍耐》という言葉をはいてみるつもりだった」とあるが、それはなぜだと考えられるか。最も適当なものを次の内から選び記号で答えなさい。

- ア 《忍耐》という自分の好きな言葉を外国語で覚えておきたかったから。
- イ 《忍耐》という言葉には外国語ではちがったニュアンスがあると思ったから。
- ウ 希望を与えた恩人を急に思い出し座右の言葉を引いてみたかったから。
- エ 父親になる上で《忍耐》の正確な意味を把握しておきたかったから。
- オ 父親としての自覚をもつと同時に《忍耐》を肝に銘じたかったから。

問七 傍線部ア～オのカタカナを漢字で書きなさい。

第三問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお、出題の都合により字句を改めたところがある。

①世を捨てたる人の、よろづにするすみなるが、なべて、ほだし多かる人の、よろづにへつらひ、望み深きを見て、出家した人で、万事において、給じて、親や妻子などの家族が多い人で、何かにつけて人のご機嫌をとり、欲が深いのを

無下に思ひくたすは僻事なり。
むやみに軽蔑する

②その人の心になりて思へば、まことに、かなしからん親のため妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべき事なり。
しかなないことである。

されば、盗人を縛め、僻事をのみ罪せんよりは、世の人の飢えず寒からぬやうに、世をば行はまほしきなり。
だから、罰する 世間の人が 治めてほしいものだ。

人、恒の産なき時は、恒の心なし。人、きはまりて盗みす。世治まらずして凍餒の苦しみあらば、科の者絶ゆべからず。
困り果てて 罪を犯す者が絶えるはずがない

人を苦しめ法を犯さしめて、それを罪なはん事、不便のわざなり。
罰するのは、

(『徒然草』第一四二段より)

- ※1 するすみ…親や妻子などの家族がなく、独り身であること。
- ※2 僻事…まちがったこと。
- ※3 恒の産なき時は、恒の心なし…『孟子』『梁恵王上』にあることば。決まった生業を持たないと、心も安定しない。
- ※4 凍餒…凍え、飢えること。
- ※5 科…罪。

問一 傍線部①「世を捨てたる人」がおかす間違つたこととはどのようなことか。最も適當なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 自分が一切の人間関係を断絶したことを自慢して他人にすがって生きる人を軽薄だといってばかにすること。
- イ 自分は親族と縁をきって独り身であることをよいことに他人が親族に機嫌をとっていることを軽蔑すること。
- ウ 人間関係を断絶して養うべき親族がいない人が親族のために世俗的で強欲な行動をとる他人を非難すること。
- エ 人々が親族を養うためにいろいろ苦勞する姿をみて人々も自分のように出家すべきだと浅はかに主張すること。
- オ 人々が親族を養うために欲深くならざるを得ない状況をみて自分が世を捨てた決断が正しかったと自慢すること。

問二 傍線部②「その人」とはどのような人を指すか。文中の最も適切な言葉を次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 世を捨てたる人
- イ ほだし多かる人
- ウ 親
- エ 妻子
- オ 世の人

問三 傍線部③「不便のわざなり」の意味として最も適切なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 大変むごい災いだ。
- イ 非人道的な仕事だ。
- ウ くだらない仕事だ。
- エ 不都合な制度だ。
- オ 気の毒な行為だ。

問四 筆者の主張として最も適切なものを次の内から選り記号で答えなさい。

- ア 人民は生活に苦しんだ結果、法を犯すのであるから為政者は人民の生活の充実を図るべきである。
- イ 人民は親や妻子を養わなければならないのであるから為政者は法律を整備して応援するべきである。
- ウ 人民は生活に困窮すれば必ず法を犯し犯罪者となるので為政者は法律による処罰をするべきではない。
- エ 人民が法を犯すようになると国は治まらないので為政者は法律遵守に向けた強化を行うべきである。
- オ 人民が生活に困って安易に法を犯すことのないように為政者は人民に対して道徳教育をするべきである。

令和二年度 沖縄尚学高等学校一般入学試験（A方式）

解答用紙

国語

第一問

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

イ

ウ

第二問

問一

問二

問三

問四

エ

オ

小計

問五

問六

問七

イ

ウ

エ

オ

小計

第三問

問一

問二

問三

問四

小計

受験番号		
氏名	ふりがな	出身中学校
		中学校

得点